

JA全農ウィークリー

J A Z E N - N O H W E E K L Y

Web版
JA全農ウィークリーは
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>



2面

「和牛焼肉
岡山そだち」オープン
(フードマーケット事業部)

4-5面

「グループ会社
代表者セミナー」を開催
(経営企画部)

配送先変更(住所・宛名)、
配布部数変更はこちら



<https://x.gd/G3W90>

News!



「和牛焼肉 岡山そだち」オープン

直営で累計48店舗目、岡山県産食材にこだわり

フードマーケット事業部

全農は10月24日、直営店舗の累計48店舗目として「和牛焼肉 岡山そだち」を岡山市に新規開業しました。全農グループでは、国産農畜産物の消費拡大・PR強化や、外食産業における国産農畜産物の利用拡大を促進するため、直営飲食店舗を展開しています。

同店は、岡山県が誇るブランド和牛「おかやま和牛肉」を1頭買いし、さまざまな部位のおいしさを味わえるよう盛り合わせや食べ比べメニューを用意しています。

お肉との相性抜群の岡山県産ブランド米「里海米」は、炊きたてのふっくらしっとり食感を楽しめるよう、釜だしスタイルで提供します。

その他メニューも、ブランド豚「ピーチポーク」や旬の野菜・果物を使用するなど



さまざまな部位を楽しめる「おかやま和牛肉五つ星食べ比べ」

岡山県が誇る豊富な食材にこだわっています。

食べ比べが楽しめる「おかやま和牛肉五つ星食べ比べ」、コースメニューの「そだちコース」のほか、ランチの定食メニュー、平日限定コースなどバラエティー豊かなメニューを用意しており、家族連れや会食などさまざまなシーンで利用できます。



「和牛焼肉 岡山そだち」はJR岡山駅から徒歩5分の好立地

店舗詳細はこちら

「和牛焼肉 岡山そだち」みのりみのるプロジェクト



News!



新商品「山形フルーツミックス」を発売

「フルーツ150周年」記念、知事が太鼓判、試飲会でも大好評

山形県本部・山形食品(株)

山形県本部の関連会社である山形食品(株)は、県産果汁100%ジュース「山形フルーツミックス」を10月19日に発売しました。

同商品は、山形県でサクランボや西洋梨などの栽培が始まってから、2025年で150周年を迎えることを記念した「やまがたフルーツ150周年」に合わせて開発されました。県産のサクランボ、西洋梨「ラ・フランス」、リンゴ、桃の果汁を配合しており、果物本来の風味を味わえます。

10月4日には、山形県本部の折原敬一運営委員会会長と長谷川直秀県本部長、同社の太田聡社長が吉村美栄子山形県知事のもとを訪れ、商品を紹介しました。試飲した吉村知事は「果

物それぞれの甘味や香りが存分に感じられて味わい深い。県内外の消費者に県産果物のおいしさをアピールできると期待を寄せました。

10月19日から開催された第72回山形県農林水産祭「秋の食彩まつり」では、試飲・販売会を行いました。試飲は商品の缶を模したジュースサーバーから来場者自身がコップに注ぐ方法で実施。開始から長蛇の列となりました。

同商品はJAタウン「小さなYAMAGATAマルシェ」の他、県内のJA直売所や道の駅、量販店などで26年3月末まで販売します。



吉村知事(前列中央)からも高評価



家族連れでにぎわった試飲会



ブラウブリッツ戦にスポンサー協賛

新米「あきたこまち」配り、県産農畜産物ブースを設置

秋田県本部

秋田県本部は10月20日、秋田市のソニースタジアムで行われたサッカーJ2リーグ「ブラウブリッツ秋田 vs V・ファアレン長崎」戦にマッチスポンサー協賛しました。

スタジアムの入場口では、ミスあきたこまちや県本部職員が、今年でデビュー40周年を迎えた新米「あきたこまち」の小袋とオリジナルメガホンを来場者に配布しました。

また、会場内に秋田県産農畜産物を販売するブースを設置したほか、新米「あきたこまち」が当たる「お米計りゲーム」や抽選会などのイベントを開催して、試合を盛り上げました。



©2024 BLAUBLITZ AKITA / Maro2(BBPJ)

来場者に秋田県産品を手渡すミスあきたこまち



第100回広島県畜産共進会「種畜の部」を開催

肉用種種牛・総合首席に「ファームおよう」の「もも」

広島県本部

広島県本部と広島県酪農業協同組合は、10月下旬に三次市で第100回広島県畜産共進会「種畜の部」を開催しました。

同共進会は1909年の第1回開催以来、今回で第100回を迎えました。今回から、2027年開催予定の「第13回全国和牛能力共進会北海道大会」に向け、同大会に合わせた審査区分に変更しました。

肉用種種牛の部では、庄原市の農事組合法人「ファームおよう」が出品した雌牛「もも」(父貴隼桜・当時18カ月齢)が総合首席に輝きました。

「もも」は体格の充実、雌牛らしい輪郭の鮮明さ、皮膚や被毛の質の高さが評価されました。



肉用種種牛の部で総合首席に輝いた「もも」

「ファームおよう」の戸井萬芳代表理事は「地域一丸で育てたことで、記念すべき大会で総合首席を取ることができた」と話しました。



エコープマーク品 菓子2商品新発売

「洋菓子ミックス」と「北海道産黒豆使用甘納豆」

くらし支援部

全農はエコープマーク品菓子の2商品「エコープ洋菓子ミックス」と「エコープ北海道産黒豆使用甘納豆」を、10月1日から全国で順次発売しています。

洋菓子ミックスは、6種の洋菓子(バウムクーヘン、フィナンシェ、シヨコラフィナンシェ、プチマドレーヌ、マフィン、チョコクリームサンド)で構成され、昨年発売した「エコープ和菓子ミックス」に続き幅広い世代にお楽しみいただけます。

北海道産黒豆使用甘納豆は、砂糖を控えめにすることで黒豆本来の甘みや風味、食感を感じられる商品となっています。



エコープ洋菓子ミックス: 内容量125g、参考価格299円(税別)



エコープ北海道産黒豆使用甘納豆: 内容量75g、参考価格259円(税別)

「グループ会社代表者セミナー」を開催



活力ある全農グループを作ろう!!

全農は10月16日、「グループ会社代表者セミナー」を開催し、会社代表者や本会役職員ら約240人が参加しました。今年は全国から約130人が実出席し、オンライン会議システムも併用しました。

【経営企画部】

セミナーの開会あいさつで、全

農の折原敬一経営管理委員会会長は次期中期計画の策定にあたり、六つの全体戦略や、今年改正された食料・農業・農村基本法にある持続可能な農業に向けた施策を反映することなどを説明しました。さらにグループ会社の社長に向けて「現場を原点とし、新たな発想をもつて関係者とともに話し合い、活力のある全農グループを一緒に作りましょう」と語りかけました。

理事長講話では、桑田義文理



開会あいさつをする
折原会長

の改正や本会の2030年を見

据えた事業計画策定の方向性をもとに、全農グループ一体となった総合力発揮の重要性を訴えました。経営企画部の市瀬一貴部長は「次期中期計画策定における資本政策」と題し、全農グループをとりまく事業環境を背景に、グループ経営のさらなる強化の重要性を説明しました。

後半は、グループ会社の情勢報告として、JA全農たまご(株)の河上雄二代表取締役社長から、同社の「たまごだけじゃない」新たな事業領域開発の取り組みや、



グループ役員・従業員への
メッセージを説明する桑田理事長



資本政策案などを
説明する市瀬部長

会社独自のESG経営、社員エンゲージメント向上に向けた取り組みについて講演をいただきました。

また、TOPPANホールディングス(株)の磨秀晴代表取締役社長CEOからは、グループシナジー最大化に向けたポートフォリオ変革の取り組みと、将来を見据えた新規事業への投資や事業拡大について講演をいただきました。

最後に、全農グループ全体で総合力を発揮し、グループ内外でのさらなる事業連携強化と変革を起こしていくことを確認し、閉会しました。

「TOPPANグループのポートフォリオ変革に 向けた取り組み」グループシナジの最大化に向けて

TOPPANホールディングス株式会社 代表取締役社長CEO 磨 秀晴氏
まろ ひではる



当社は急速に変化する市場環境に対応するため、事業の多角化と持続可能な経営戦略の推進に取り組んでいます。

2023年10月には縦割り組織の課題感から、グループシナジの最大化とグループガバナンス強化の実現に向けて、持ち株会社制の経営体制へ移行するとともに、印刷技術を企業の基盤としつつ、印刷のカテゴリーに限定されないビジネスを広げる意味で、社名変更を実施しました。

また、縮小傾向の印刷業界でデジタル化による付加価値の提供を目指すとともに、温暖化や経済格差などの社会課題を、ワールドワイドで解決するリーディングカンパニーを目指して、『デジタル(DX)&サステイナブル(SX)・トランスフォーメーション』を中期経営計画のスローガンとして盛り込みました。

さらに収益力を高めるために、積

極的に拡大すべき事業への注力と、見直しが必要な事業の構造改革による事業ポートフォリオの変革に取り組んでいます。具体的にはDX事業や環境負荷を低減する商品包装の開発、生活系とセキュリティ系を中心としたグローバル展開、メタバース事業などの新事業への取り組みが挙げられます。

このほか、持続的成長を見据えた投資と財務戦略の実行による企業価値向上を目指し、積極拡大事業への投資の強化や、次の役員候補生の育成などに取り組んでいます。

全農グループもまた、農業従事者の高齢化や耕作面積の減少といった課題に直面しており、持続可能な農業経営が重要なテーマとなっています。TOPPANが提供するサステナブルなソリューションやデジタル技術の活用は、全農グループの課題解決に貢献する可能性を秘めています。

両組織が直面する課題には多くの共通点があり、互いの知見と技術を生かすことで、より持続可能な社会の実現に向けた前進が期待できると考えています。

「社員と組織を活性化！ 『ただただじゃない』企業を目指す」

J A全農たまご株式会社代表取締役社長 河上 雄二氏
かわかみ ゆうじ



J A全農たまごは殻付き卵事業を中核としており、国産鶏卵シェアは約16%を占め、業界トップ企業として、鶏卵相

場発表や健全なマーケットを構成し、卵の需給調整機能を発揮しています。

しかし、将来的には人口減少により鶏卵消費量が減少する見込みであり、農林水産政策研究所によると、当社の主力領域である生鮮食品の支出総額は、2030年には2015年比で85%にまで減少。一方、加工食品の支出総額は107%に増加する予想です。

このような情勢を踏まえ、当社は「JA全農たまごVision2030」を策定し、「ただただじゃない企業へ。健康で豊かな食生活を育むたまごから始まる価値ある食の総合提案を行い、社会に貢献します」というスローガンを掲げています。これは「卵からの脱却」ではなく、「卵の事業領域を広げる」ことを目指すもので、他社との共同商品開発や、社内での新規事業開発

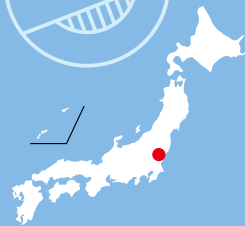
コンテストなどを通じて、社員の意識変革と行動変容を促しています。

また、中期経営計画2024基本方針の柱の一つとして、JA全農たまご版ESG経営を挙げています。環境面(E)では気候変動対策、資源循環・耕畜連携、アニマルウェルフェアを重点課題とし、KPIを設定して定量的な実績把握に取り組んでいます。社会面(S)では業界団体と連携した卵の価値に関する知識普及活動や働き方改革、職場環境改善などに取り組み、企業統治(G)では、系統鶏卵事業支援によるグループ価値の向上や、リスクマネジメントの浸透による健全で効率的な経営の実践を目指します。

このほか当社は、社員のエンゲージメント向上に向けて、人事制度や教育研修の見直しのほか、独自の取り組みとして、三ツ星タマリエ検定(卵のソムリエ)の取得を推進しています。これらの取り組みにより、社員一人一人が自社を好きになり、自分たちが鶏卵業界を盛り上げていくという動きになれば、当社の経営理念である「生産者・国内鶏卵産業の発展と、日本の食と農の発展に貢献する」を実践していけるのではないかと思います。

県本部 だより

茨城県本部



環境に対応した持続可能な農業を目指して

混合堆肥複合肥料と水稻高温障害対策を重点に

茨城県本部では高騰している肥料価格を抑え、安定した農産物の生産を目指すために、堆肥を活用した「混合堆肥複合肥料」の取り扱いを拡大しています。また、酷暑の影響を受け、問題になっている水稻の高温障害について、JAや県と連携した取り組みを進めています。

県内産豚ぶん堆肥使い 混合堆肥複合肥料を開発

堆肥と化学肥料を混合して作られた混合堆肥複合肥料は、養分が作物

にゆっくり吸収されることや、土壌改良の効果があるなどの堆肥のメリットはそのままに、散布のしにくさや、成分の不安定さなどのデメリットを払拭した肥料です。



混合堆肥複合肥料
「サステナフルーツZII」



混合堆肥複合肥料
「サステナミライZI」

肥料メーカーである朝日アグリア(株)と共同で新製品の開発を進め、昨年県内産豚ぶん堆肥を使用した「サステナミライZI」を発売しました。従来の化学肥料に比べて価格を2〜3割低減しながら、土壌改良効果も期待できる商品として、生産者からも高い評価を得ています。現在は、次年度発売を目指すとして果樹用「サステナフルーツZII」の試験に取り組んでいます。

作土深確保し高温障害対策 JAや県と連携し実証圏も

近年の異常高温は、多くの農産物に影響を与えています。令和5年産「コシ

ヒカリ」の農産物検査等級1等割合は、乳白米などの影響により45%台まで落ち込みました。そのため、乳白米の原因となる高温障害の対策は、年々重要度が高くなっています。

茨城県では、これまでも高温障害対策にも有効とされる15^{センチ}以上の作土深確保を推奨する「高品質米生産運動」を行ってききましたが、十分な作土深に満たない水田が多くあるのが実態でした。そこで、JA北つくばや県の普及指導機関と連携し、実証圏の運営を開始しました。

実証圏ではディスクロータリーによる深耕などを施し、現地検討会で生育経過やサーモグラフィカメラを使った稲体温度的変化を確認しています。

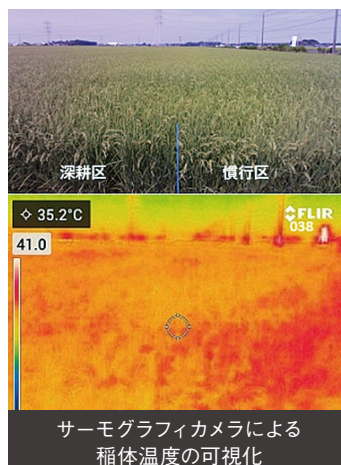
取り組みの内容は、農機展示会の「ミニ講習会」のテーマに取り上げるなど、生産者に情報提供を行っています。今後は、収量や品質の分析、検討を行い、高温障害対策に向けた技術確立を目指します。

茨城県本部は、今後も生産者が安定して農産物を生産できるよう、環境

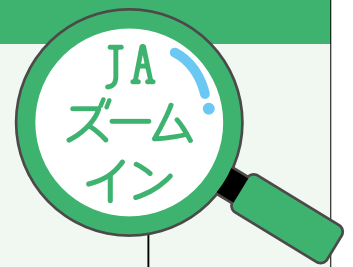
に対応した持続可能な農業を目指して取り組んでいきます。



ディスクロータリーによる深耕



サーモグラフィカメラによる
稲体温度の可視化



「種なしピーマン」産地化を目指す

切り戻し栽培で農家所得向上へ

神奈川県は平塚市、伊勢原市、大磯町、二宮町の2市2町を事業区域に活動しています。東京・横浜などの大消費地に近く、米をはじめ、キュウリ、トマトなどの施設野菜やネギ、タマネギなどの露地野菜、梨やブドウ

ウなどの果物が盛んに栽培されています。

果実の中に種が無く
付加価値高いピーマン

近年、県産ハウストマトは、主産県の供給量増加の影響で市場価格が低迷しています。

らも期待されています。JAは、安定出荷することで、農家所得向上を図りたいと考えており、今年は県内5市場へ約13トの出荷を計画しています。

「切り戻し栽培」で
コスト削減・安定供給

また、2年ほど前から、一部の生産者が主枝を切り、側芽を伸ばして新しい主枝にすることで、再びピーマンの収穫を可能にする「切り戻し栽培」を行っています。

肉厚でみずみずしく苦みが少ない「種なしピーマン」

現状を踏まえ、JAは4年前から「種なしピーマン」の栽培を推奨してきました。種なしピーマンは、種を取る手間が無いため、付加価値が高く、市場か

苗代を抑えられるため、コスト削減になり、植え替える手間も省けます。通常の出荷シーズンが終わった10月下旬〜12月下旬の収穫が可能となり、さらなる農家所得の向上が見込めます。

JA湘南 (神奈川県)



概要

2024年2月末現在

正組合員数	5755人
准組合員数	2万2983人
職員数	477人
販売品取扱高	32億円
購買品取扱高	47億円
貯金残高	4708億円
長期共済保有高	8358億円
主な農産物	米、キュウリ、トマト、 ネギ、タマネギ、梨、 ブドウ



切り戻し栽培で育てた種なしピーマンを収穫する生産者の近藤剛司さん

産地化へ出荷組合を設立 情報共有し仲間づくりも

JAは2022年に「JA種なしピーマン出荷組合」を設立し、現在5戸の生産者



切り戻しが行われた株

が所属しています。定期的な圃場巡回に加え、適切な施肥、病害虫対策などの情報を共有し、生産者をサポートしています。花きやトマト生産者に積極的に声をかけを行うなどして、生産者を増やす取り組みも行っています。今後も、JA、生産者が一体となって種なしピーマンの産地化を目指します。

2025年度「旬鮮倶楽部」申し込み受け付け中

頒布会カタログで日本の農業を応援

全農は、北海道から沖縄まで全国各地の旬の果物を中心に、毎月商品をお届けする頒布会事業「旬鮮倶楽部」に取り組んでいます。【くらし支援部】

2025年度は母の日・父の日、クリスマス、お中元など季節ごとの歳時企画に加え、新たに「贅沢フルーツ特集」や、サケや栗など秋らしい旬の食材を取りそろえた「秋の味覚特集」などを企画しました。全国の生産者が丹精込めて育てた旬の果実や、国産原料優先使用のこだわり商品をぜひこの機会にお試ください。

25年度分のご注文は、25年1月末まで全国のJA窓口、Aコープ店舗で受け付けており、商品は4月からお届けします。詳細やご不明点は、各区域の全農生活事業担当部署までお問い合わせください。

※一部取り扱いのないJAもあります。



2025年度のカタログ(左:東日本版、右:西日本版)

秋の田んぼで稲刈り体験 & 生きものの調査

31種の生きものの発見、水田の多面的機能を学ぶ

全農は10月5日、大田公民館(神奈川県伊勢原市)で「JA全農プレゼンツ 2024 田んぼの生きものの調査～秋の田んぼで稲刈り体験&生きものの調査～」を開催し、12組37人の親子が参加しました。【広報・調査部】

同イベントは、子どもたちが「農」や「食」の大切さと水田が果たす多面的機能を学ぶことを目的に開催しています。

講師の指導のもと、田んぼで生きものを探し、オンブバッタやコシマゲンゴロウなど31種を見つけました。参加者からは「雨天だったが、思ったより生きものを多く見つけることができた」と感想が寄せられました。

稲刈り体験では親子が協力しながら、慎重に鎌を動かし、「うまく刈ることができた」と笑顔で話しました。最後に参加者たちは、おにぎりを試食。イベントを通じて、地域の米を食べることが生きものを育む田んぼを守ることにつながることを学びました。



田んぼで生きものを探す参加者



神奈川県産米「はるみ」のおにぎりを試食



JA全農の産地直送通販サイト

JAおおふなと

岩手県沿岸部に位置する陸前高田市米崎町を中心に生産されるリンゴです。全国でも珍しい海を望むリンゴ畑で、浜風とさんさんと降り注ぐ太陽の光を浴びて育ちます。その美しい風景とともに自慢の名産品です。

温暖で雪が降るのが遅いため、樹上で完熟してから収穫することができる「米崎りんご」は、コクのある濃厚な甘さが特徴です。

こちらの商品は、甘味と酸味のバランスが絶妙な人気品種「サンふじ」です。サビや小傷があるため「ご家庭用」としてのご提供ですが、味は遜色ありません。この機会にぜひ「米崎りんご」をお試ください。



「ご家庭用」米崎りんご サンふじ 約5Kg・・・3920円(税込み)
【12月20日ごろからの発送】

▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは ☐ shop@ja-town1.com

ご注文は
こちらから

